

NEWS LETTER

~岩手の復興を人材育成から、今こそ連携の力で!~

Index

こ	₩	+«	
	恢	157	

1

■トピックス

 $2 \sim 6$

- □いわて高等教育コンソーシアム シンポジウム
- □平泉文化フォーラム
- □震災後の岩手県の公文書保存を 考える
- □ウインターセッション
- □いわて学Ⅱ
- □危機管理と復興
- □地域課題解決プロジェクト: さんてつ活用推進チーム 東北かけはしプロジェクトイベント
- □地域課題解決プロジェクト: 西和賀地区
- □グローカル基礎研修
- □ FD・SD 研修会
- □復興地の高校生と コンソーシアム連携校の学生が ともに学ぶワークショップ

ご挨拶

新たな共同研究の構築へ

平成30年1月27日(土)・28日(日)、一関市で第18回 平泉文化フォーラムが開催された。いわて高等教育コンソーシアムでは、2009年に岩手県教育委員会と平泉文化に関する共同研究推進の覚書を取り交わし、以後このフォーラムの共同主催者として取り組んできた。平泉の文化遺産は2011年6月、パリでの世界遺産会議で世界遺産登録を果たしたが、構成資産は中尊寺・毛越寺など5資産に限られ、平泉藤



地域研究推進委員会 (盛岡大学文学部長) 熊谷 常正

原氏の居館・柳之御所遺跡をはじめ平泉文化研究上重要な史跡は除外されてしまった。 本フォーラムは、平泉文化研究の深化とともに、これら除外資産を含む拡張登録を目指 し、研究成果の発信と気運の醸成を意図したものでもあった。

しかし、世界遺産の資産拡張はわが国にとって未経験で、研究成果は蓄積されつつあるが、具体的な道筋はなかなか見えてこない。その後、釜石市橋野鉄鉱山の登録や、「北海道・北東北の縄文遺跡群」として暫定リスト登載の一戸町御所野遺跡など世界遺産に限っても県内の状況は変化してきている。

地域研究推進委員会では、これに加え東日本大震災後に沿岸部の学校や図書館支援、 被災文化財の調査や保存に関わり、シンポジウムなども開催してきた。その結果、震災 やその後の災害で多くの歴史・民俗資料や文書類が脆弱な状況にあることが改めて確 認され、保存を講じることが喫緊の課題として浮上してきた。

被災資料に限らずこれらは、各地域で育まれた生活・文化を示す基本資料である。これの分析・検討によって地域に根ざした歴史叙述が可能になるのはいうまでもない。その成果のひとつの発露が自治体史であろう。震災は甚大な被害をもたらしたが、その一方で私たちが地域を見直す契機にもなった。そのような地域の歴史・文化を共有するツールとしての自治体史を持つことは、今後の住民にとり大きなエネルギーとなるだろう。

だが、岩手県では1960年代の『岩手県史』があるだけで、以後まとまった自治体史は刊行されていない。半世紀前と現在では歴史解釈に大きな隔たりがある。とりわけ近代史の記述は1941年で停止し、内容も県の行政文書に偏るなど、本来の自治体史、住民主体の歴史とは言い難い。加えて、復興事業関連発掘調査では、原始時代から近代に至る膨大な資料の蓄積が進み、新たな歴史像の構築も進んでいる。

今後、本委員会では、このようなテーマだけでなく、より広い共同研究課題策定の場を設ける予定である。ぜひ、ご意見を賜り積極的な支援をお願いしたい。

いわて高等教育コンソーシアム詳細 http://www.ihatov-u.jp/

Topics

平成29年度 いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム 「地方創生を担う人材育成」

● 「平成29年度いわて高等教育コンソーシアムシンポジウム」の実施状況について

岩手県内の高等教育機関で構成するいわて高等教育コンソーシアムは、平成30年2月2日(金)ホテルルイズを会場に「地方創生を担う人材育成」と題してシンポジウムを開催いたしました。

各構成校ではそれぞれ特色を生かし様々な人材育成活動を行っていますが、地方自治体や企業等と連携し、地方創生を担う人材育成について考える機会とするため、初めに基調講演として、共愛学園前橋国際大学学長である大森昭生氏に「連携から一体へ〜地方創生を担う地域人材育成の視点と実際〜」と題して、共愛学園前橋国際大学における地域と一体となった取り組みについて様々な事例を基に講演していただきました。

その後、大学及び地方自治体で行っているプロジェクト関係の事例として、山形大学の教育開発連携支援センター・FD支援部門長の小田隆治氏からは「山形大学エリアキャンパスもがみ」の事例について、遠野市の遠野市民センター所長の石田久男氏からは、「とおのみらい創りカレッジ」の取り組み内容について、滝沢市の企画総務部企画政策課長の熊谷和久氏からは、地理的条件を活かした近隣の大学との連携事例について報告していただきました。

シンポジウム後半では、岩手県立大学副学長である齋藤俊明 氏のコーディネートのもと、基調講演講師及び事例報告者3名 の計4名をパネリストとしたパネルディスカッションを行い、 各自治体の現状や各大学が果たすべき連携のあり方について活 発な意見交換がなされました。

パネルディスカッション終了後は、各構成校の長である各学 長等から一言ずつコメントをいただくことで、各構成校関係者 だけにとどまらず、ほぼ満員となった会場の参加者が地域人材 育成について共通認識を図ることになり、大変貴重な機会とな りました。



共愛学園前橋国際大学 大森昭生氏による基調講演の様子





各学長によるコメントの様子



パネルディスカッションの様子

平泉文化フォーラム

第18回平泉文化フォーラムが、平成30年1月27日(土)・28日(日)に一関文化センターに 於いて岩手県、岩手県教育委員会、いわて高等教育コンソーシアム及び岩手大学平泉文化研究セ ンターの四機関共同主催で開催され、延べ350名が参加しました。

初日は、いわて高等教育コンソーシアムを代表して岩手大学 岩渕明学長から挨拶が行われた後、西山良平京都大学名誉教授から、「平安後期の京都と開発・再開発 - 平泉を遥かに望む-」と題する基調講演をいただきました。

続いて、岩手県教育委員会及び平泉町教育委員会からそれぞれ柳の御所及び無量光院に関する 発掘調査の成果報告が行われました。さらに、岩手大学の劉海宇教授 (平泉文化研究センター) と 會澤純雄准教授 (理工学部) 及び徳留大輔客員准教授 (平泉文化研究センター) からそれぞれ共同 研究発表が行われました。

二日目には、奥州市教育委員会・一関市教育委員会がそれぞれ接待館及び骨寺村についての発掘調査の成果報告を行うとともに、佐藤健治氏(文化庁文化財部)と荒木優也氏(國學院大學)から共同研究発表が行われました。平泉についての最新の研究成果を聞くことができる充実した2日間のフォーラムとなりました。



岩手大学 岩渕明氏の挨拶



京都大学名誉教授 西山良平氏による基調講演

視察とワークショップ「震災後の岩手県の公文書保存を考える」

地域研究推進委員会は、東日本大震災以降、自然災害時における公文書のレスキューと保存を研究テーマに掲げ、国文学研究資料館の「アーカイブズ学(公文書の保存と研究の学問)」研究チームと連携して調査研究を重ね、その成果を社会に還元すべく講演会やシンポジウムなどを開催して、広く社会に対して提言を行ってきました。

今回は日本同様、自然災害に見舞われることが多く、その中で培われてきた「アーカイブズ学」の先進国イタリアのバチカン図書館とイタリア国立アーカイブズ・図書資料保存修復中央機構から3名をお招きして、釜石市の公文書のレスキューと保存整理の状況の視察を行い、盛岡でその視察の成果を議論するワークショップを行いました。

視察にもワークショップにも、いわて高等教育コンソーシアム構成機関の教職員・学生、一般の希望者が多数参加して、実りあるものとなりました。



釜石市の視察



ワークショップ

平成29年度 高大連携 「ウインターセッション」



ウインターセッションは、県内の高校生が大学教育に対する理解を深め、明確な進学意識を確立することを目的として、毎年12月に実施しているものです。今年度は、各大学における学部ごとの授業体験を平成29年12月25日(月)、26日(火)に、また、全体会を最終日の12月27日(水)に、

盛岡市民文化ホール (マリオス) を会場として実施しました。

この全体会では、大学の人文・社会科学分野、理学・工学・ 農学分野、医学・歯学・薬学分野に分かれて大学における学 修内容を分野別に説明し、大学教育の全体像の理解を図りま した。参加した高校生は864名で、皆、大変熱心に受講して くれました。ウインターセッションで得られたことを将来の 進路選択に活かしていただくことを期待します。



全体会の様子

平成29年度後期集中講義「いわて学Ⅱ」

「いわて学」は、岩手県内の大学による共通授業として、平成22年度から年2回、前期と後期 に開講しています。後期「いわて学」は、昨年度まで平泉を中心とした岩手の歴史と産業につい て取りあげてきましたが、今年度はテーマを一新し、サブタイトル「もりおか学」として、盛岡の 歴史や地理について学びました。 岩手大学・盛岡大学・富士大学・岩手県立大学の4校からの履 修登録者は63名、そのうち単位修得者は49名でした。

授業では、土器や土偶の時代から、古代の志波城や近世の盛岡城下町に至る歴史と、盛岡の地 形や地質、北上川と雫石川のダムの役割について紹介し、盛岡の街の形成や発展には北上川を初 めとする河川が大きく影響したことを学びました。この授業では合計4回の野外調査・施設見学 の機会を設け、講義で聴いた話を自分の目で確認することを重視しました。11月4日の「ブラも りおか」では、昔の地形の痕跡を探す課題をグループごとに与え、現在の地図と昭和初期の地図 を見比べながら実際に街を歩き、町並みに微かに残る歴史を自分たちの目で見つけることに取り 組みました。学生も訪れることの多い大通り周辺の道路の曲がり具合やわずかな段差にも、実は 歴史的な背景があることを体験的に理解してくれたはずです。

	日 程		テーマ・内容	講師	会 場
1		9:30~11:00	○盛岡の自然史 (地形・地質・古環境)	岩手県立大学/吉木岳哉	岩手県立大学
2	9/30 (士)	12:30~13:30	○古代の盛岡		遺跡の学び館 志波城
3.4	(1)	13:30~16:30	●遺跡の学び館 館内見学 ●志波城 現地見学	遺跡の学び館/津嶋知弘	
5		9:30~11:00	○近世盛岡の街の歴史		
6	10/7	11:10~12:30	○盛岡藩の交通と経済	東海大学/兼平賢治	岩手県立大学
7	(土)	13:20~14:50	○盛岡藩の個性あふれる藩主たち		
自由参加		15:00~16:45	●県立博物館 中世の盛岡展 見学	岩手県立博物館/佐々木康裕	岩手県立博物館
8	10/14	9:30~12:40	○水害と盛岡 (北上川水害史)	国土交通省	岩手県立大学
9	(土)		●四十四田ダム見学	岩手河川国道事務所・ 北上川ダム統合管理事務所	四十四田ダム
10 • 11	11/4	10:40~12:00	○古地図で見る盛岡市街地(グループワーク)	岩手県立大学/吉木岳哉	岩手県民会館
12 • 13	(土)	12:30~15:30	●ブラもりおか (古地図を持って街歩き)	石于东立八子/ 日小田成	盛岡市街
14 • 15	11/18 (土)	9:30~12:00	○巡検報告会 ○課題の指示	岩手県立大学/吉木岳哉	岩手県立大学





史蹟・志波城の見学





四十四田ダム内部の見学

平成29年度後期集中講義「危機管理と復興」

後期集中講義「危機管理と復興」は、防災、都市計画、地域コミュニティー再生な ど危機管理に関する知識を学ぶとともに、グループワークでの実習を通して、災害 時に必要な知見能力の習得を目的としています。

6年目を迎える今年度は、平成29年10月28日(土)から12月16日(土)まで 全15回の講義を行い、岩手大学20名、岩手県立大学1名、岩手医科大学2名の計 23名が受講しました。

講義では、震災を軸とした救済、医療、犯罪など、様々な観点から自助、共助、公 助について学んだ他、現地視察の後には、沿岸地域復興の現状と課題、また震災遺構 の伝え方等について意見を出し合い、深い学びを得た講義となりました。

	日 程	内 容	講師	
1.2	10/28 (土)	東日本大震災と岩手県での対応	岩手大学 地域防災研究センター 客員教授 越野修三	
3 • 4	11/11 (土)	災害時の医療活動	岩手医科大学 災害時地域医療支援教育センター センター長 真瀬智彦	
5.6	11/18 (土)	いわてにおける防犯の現状と課題	岩手大学 人文社会科学部 准教授 藤本幸二	
7.8	12/2 (土)	防災教育	関西大学 社会安全学部 准教授 城下英行	
9 • 10	12/9 (土)	都市と景観	東洋大学 理工学部 講師 神山 藍	
11 · 12	12/10 (日)	陸前高田視察		
13 · 14	12/16 (±)	震災遺構と災害文化	岩手大学 人文社会科学部	
15	12/10(上)	振り返り:グループワーク	教授 後藤尚人	



関西大学 城下英行氏による防災教育講義



岩手医科大学 眞瀬智彦氏による災害時の医療活動講義

Topics

地域課題解決プロジェクトさんてつ活用推進チーム

東北かけはしプロジェクトイベント

平成30年3月3日(土)、いわて高等教育コンソーシアム地域課題解決プロジェクトの一環として三陸鉄道の有効活用をテーマに活動している大学生グループが、㈱イトーヨーカ堂「東北かけはしプロジェクト」(会場:イトーヨーカドーアリオ葛西店)に参加し、これまでの活動を紹介するステージ発表等を行いました。

(㈱イトーヨーカ堂では、「東北の思いと応援している全国の皆様の思いをつなぐ」をテーマに岩手県、宮城県、福島県の行政や、東北被災企業、大手食品メーカーと協同で2011年から継続して「東北かけはしプロジェクト」を実施しており、その企画検討の中で岩手大学(いわて高等教育コンソーシアム「地域課題解決プロジェクト(さんてつ活用推進チーム)」)にお声がけをいただいたことが参加のきっかけとなりました。

その後、三陸鉄道㈱にも参画頂ける事となり、三陸鉄道とイトーヨーカ堂が共同開発したオリジナルコラボ商品の誕生にもつながりました。また、来場の子供たちに楽しみながら三陸鉄道を知ってもらうため「三陸鉄道ダンボールクラフトコーナー」を実施しました。用意した50個の工作キットは、午後にはすべてなくなり大盛況となりました。

今回のイベントは、東北地方の現状、並びにその中にあっての三陸鉄 道を関東圏の皆様に知っていただく大変貴重な機会になりました。

いわて高等教育コンソーシアム地域課題解決プロジェクトでは、今後も地域社会と連携しつつ、「地域を担う中核的人材の育成」を推進していきます。



これまでの三陸鉄道支援に関する活動を紹介する大学生



たくさんの親子連れが訪れた「三陸鉄道ダンボールクラフトコーナー



三陸鉄道とイトーヨーカドーのオリジナルコラボ商品

地域課題解決プロジェクト 西和賀地区

平成29年度から活動を開始した岩手県西和賀地区をフィールドとした地域課題解決プロジェクトでは、住民のおおよそ半分が高齢者となり、過疎化が進む西和賀地区の未来を見据えて"地域創生~いつまでも住み続けたいと思うまちづくり~"をテーマに西和賀高校の生徒といわてコンソ連携校の学生がともに考え、広い意味での地域課題解決に取り組んでいます。

今年度は岩手大学生6名、岩手県立大学生1名、盛岡大学生1名の計8名が10月から月に1回のペースで西和賀高校を訪問し、高校生とともに意見交換を行いました。

初めは西和賀地区の現状及び課題を把握するため、西和賀町の総合戦略・共生ビジョン等の資料読み込みを行いました。

意見交換の中で西和賀地区の特色のひとつである「雪」を生かしたPR手法として雪上運動会の開催が提案され、平成30年1月21日(日)に西和賀高校グラウンドを会場として実現しました。かんじきリレーや宝探し等、多彩な種目を実施し大いに盛り上がりました。



西和賀高校でのグループワーク



「かんじき」を使用しての雪上運動会



かんじきリレーの様子

グローカル基礎研修 三陸ジオパーク・被災地復興視察研修

平成30年2月、「グローカル基礎研修」科目の「三陸ジオパーク・被災地復興視察研修」 を実施し、日本人21名、中国人4名、モンゴル人1名の合計26名が参加しました。まず、 事前研修で三陸ジオパークの基礎知識を学び、1泊2日の本研修では、留学生と日本人で 構成された6つのグループで三陸沿岸のハイペ海岸、平井賀漁港、田老防潮堤、田老観光 ホテルなどを訪れ、「三陸ジオパーク・震災遺構の活用による観光振興」、「地域特産品の活 用による観光振興」、「観光客増加に向けた情報発信」、「観光客受入に向けた地域の対応・ 改善策」について考えました。最終発表では三陸ジオパークの認知度向上のため、青空教 室を実施したり、小中学校の授業でジオパークを紹介してもらうように働きかけてはどう か、といった意見や、三陸ブランドの確立を図るため、地域同士で協力し、三陸の食材を生 かした「豪華すぎる駅弁」を開発してはどうか、といった提案が出され、三陸ジオパーク推 進協議会の職員が講評を行いました。

	日程	内 容
2/	/15 (木)	研修オリエンテーション、三陸ジオパークの基礎知識講義、グループワーク (1) [於:岩手大学]
2/	/21 (水)	震災学習列車 (久慈駅〜田野畑駅) 乗車、たのはたジオパーク・平井賀漁港などを視察、「グリーンピア三陸みやこ」(宿泊先) でグループワーク (2)
2/	/22 (木)	小堀内漁港、三王団地、山王岩、浄土ヶ浜視察後、シートピアなあどにてグループワーク (3)
2/	/23 (金)	最終発表準備のあと、グループごとに成果発表 [於:岩手大学]



宿泊先でのグループワー



岩手大学で行われた最終発表会

FD·SD研修会



グループワークの様子

FD・SD連携推進委員会では、平成30年1月11日(木)に、岩手県立大学看護学部 の遠藤良仁先生を講師にお招きしての「コーチングの観点を取り入れた「傾聴」体験と チームワーク」、2月27日(火)は山梨大学の塙先生がご参加いただけることから「学 修効果を高める反転授業 (Flipped Classroom)」の研究会、3月16日(金)にはプロ のビジネスコーチである平野順子氏を講師にお招きしての「学生への学修・研究指導 に役立つコーチング技法 (実践編)」を開催しました。それぞれ、複数の大学からの参 加者があり、ワーク等を通した実践的な学びができたことと思います。

今年度、予算が少ない中、複数の刺激的な学びの会を実施できたことは、コンソー シアムの成果なのだろうと思います。来年度も研修や研究会の実施を計画しますの で、ぜひ、ご参加ください。

復興地の高校生とコンソーシアム連携校の学生がともに学ぶワークショップ

「平成29年度復興地の高校生とコンソーシアム連携校の学生がともに学ぶワーク ショップ」が平成30年3月10日(土)に軽米町(中央公民館)で開催されました。

県北地域から計48名(福岡高校8名、福岡工業高校4名、一戸高校4名、軽米高校9 名、伊保内高校14名、大野高校9名) が参加し、岩手大・岩手県立大学生8名とともに [ふるさといわての創生~地元のあんなことこんなこと!を世界に~]をテーマに、県 北の隠れた魅力を発見し広くPRする方法についてグループワークを行いました。

二戸地域雇用開発協会事務局長、県北広域振興局二戸地域振興センター長から講評 をいただき、高校生と大学生の視点でふるさと創生について深く学びあうことができ たワークショップとなりました。



班ごとのグループワーク

発行連絡先

いわて高等教育コンソーシアム事務局

(岩手大学総務部総務広報課内)

〒020-8550 岩手県盛岡市上田三丁目 18-8 TEL.019-621-6855 FAX.019-621-6014

E-mail:ihatov5@iwate-u.ac.jp URL:http://www.ihatov-u.jp/

構 成 校 岩手県立大学・岩手県立大学盛岡短期大学部・ 岩手県立大学宮古短期大学部 岩手医科大学

盛岡大学・盛岡大学短期大学部 放送大学岩手学習センタ 関工業高等専門学校